

平成 2 5 年度
（ 2 0 1 3 年度 ）

運営に関する計画
（ 最 終 評 価 ）

大阪市立矢田西中学校

大阪市立矢田西中学校 平成 25 年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

【視点 学力の向上】

- 平成 28 年度の全国学力・学習状況調査における知識に関する問題の正答率 7 割以上の生徒の割合を、平成 24 年度より 3 ポイント向上させる。(カリキュラム改革関連)
- 学力診断テストにおける正答率 3 割以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成 24 年度より 3 ポイント減少させる。(カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- 平成 28 年度の全国学力・学習状況調査における「近所の人に会ったときは、あいさつをしている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 90%以上にする。(カリキュラム改革関連)
- 平成 28 年度の全国学力・学習状況調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を平成 24 年度より 4%向上させる。(カリキュラム改革関連)
- 平成 27 年度の生徒アンケートにおける「私は、学校内のルール、社会のルールを自然と守っている」と答える生徒の割合を平成 25 年度からの 3 年間で 5%向上させる。(カリキュラム改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

- 平成 28 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における各学年の合計得点を、平成 24 年度より 3 ポイント向上させる。(カリキュラム改革関連)
- 全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない(あまり食べていない)」と答えた生徒の割合を平成 28 年度調査において 10%以下にする。(カリキュラム改革関連)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点 学力の向上】

- ①平成26年度の全国学力・学習状況調査における知識に関する問題の正答率7割以上の生徒の割合を、平成24年度より1ポイント向上させる。(カリキュラム改革関連)
- ②学力診断テストにおける正答率3割以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成24年度より1ポイント減少させる。(カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- ①平成26年度の全国学力・学習状況調査における「近所の人に出会ったときは、あいさつをしている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を1%向上させる。(カリキュラム改革関連)
- ②平成26年度の全国学力・学習状況調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を平成24年度より1.5%向上させる。(カリキュラム改革関連)
- ③平成25年度の生徒アンケートにおける「私は、学校内のルール、社会のルールを自然と守っている」と答える生徒の割合を平成24年度より2%向上させる。(カリキュラム改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

- ①平成26年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における各学年の合計得点を、平成24年度より1ポイント向上させる。(カリキュラム改革関連)
- ②全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない(あまり食べていない)」と答えた生徒の割合を平成26年度調査において前年度より減少させる。(カリキュラム改革関連)

3 本年度の自己評価結果の総括

【視点 学力の向上】

平成25年度の全国学力・学習状況調査における知識に関する問題の正答率は、国語については平均が約7割となっており、平成26年度の調査（4月実施）も概ね目標を達成できる見通しである。数学についてはあと一步のところであったが、本年度の取り組みの効果により目標を達成できることが期待できるところにある。

学習に対する興味、理解度は、全国平均とほぼ同じか上回っている部分もある。これも、各教科の指導法や授業における創意工夫や努力の賜物と考えられる。しかし、結果に結びついていない場合もあり、学習内容の定着に向けて一層取り組む必要がある。習熟度別少人数授業やT T授業の実施、指導内容の精選や指導方法の工夫などにより、今後も生徒が明確な学習意欲を持って授業に参加し、学力の定着が図れるよう取り組みをさらに進める。

【視点 道徳心・社会性の育成】

生徒へのアンケートの結果では、進んであいさつをしている（どちらかといえばしている）と答えた生徒は約75%であった。また、学校内のルール、社会のルールを自然と守っている（どちらかといえば守っている）と答えた生徒も約75%で昨年とほぼ同じであった。目標には届かなかったが、道徳や学活の時間での指導や「朝のあいさつ運動」や「おそうじ隊」などの取り組み、生徒会・部活動を中心にあいさつ・正しい言葉遣いを身につけさせるなど、日々の学校生活を通して、全教職員が細やかに生徒に対応し、道徳教育の推進に努めている。ほ「」これまでの取り組みをさらに進めながら、本年度は実施できなかった職業講話を実施するなどの取り組みを新たに実施していく。

【視点 健康・体力の保持増進】

平成25年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における2年生の合計得点は、女子では、平成24年度を上回ったが、男子では下回った。本校の取り組みにより、運動の楽しさやその効果を伝えることについては一定の成果があらわれ、運動やスポーツについて関心を持つ生徒が増えた。小学校と連携して、引き続き運動の楽しさや効果を伝える取り組みを進め、運動やスポーツに対する意識を高めるとともに、実際に運動する環境を整える取り組みを行なう。

また、朝食を食べていない（あまり食べていない）と答えた生徒の割合は、平成25年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査においては平成24年度から減少している。引き続き授業や学活等で、朝食の大切さについて考えさせるとともに、早寝早起き朝ごはんといった基本的な生活習慣を身につけさせる取り組みを行なう。

大阪市立矢田西中学校 平成25年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 学力の向上】 ①平成26年度の全国学力・学習状況調査における知識に関する問題の正答率7割以上の生徒の割合を、平成24年度より1ポイント向上させる。(カリキュラム改革関連) ②学力診断テストにおける正答率3割以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成24年度より1ポイント減少させる。(カリキュラム改革関連)	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【区分 言語力や論理的思考能力の育成】 言語力向上、表現力育成のために、読書活動の推進に取り組む。	B
指標 読書習慣の育成のため、また教科学習・総合学習における情報センターとしての機能を十分に果たせるように、学校図書館を整備する。	
取組内容②【区分 授業研究を伴う校内研修の充実】 指導法の改善に向けて、授業研究に積極的に取り組む。	B
指標 研究授業を年間10回実施する。	
取組内容③【区分 小中一貫した教育の推進】 小中一貫したカリキュラムの点検・改善に取り組む。	B
指標 小中一貫教育実行委員会を年間2回開催し、点検・改善を行う。	
取組内容④-1【区分 各教科(国語)】 言語力向上の取組を行う。	A
指標 自分の思いを表現し、文章化できるように作文指導を適宜実施する。	
取組内容④-2【区分 各教科(社会)】 基礎学力の定着を図る。	A
指標 地図や資料、日々のニュースや新聞などを活用し、地理・歴史・公民の学習を進める。	
取組内容④-3【区分 各教科(数学)】 個に応じた指導により、基礎学力の定着を図る。	A
指標 補助教材の活用や問題の選別により、個に応じた指導を進める。	
取組内容④-4【区分 各教科(理科)】 基礎学力の定着を図る。	B
指標 実験方法の創意工夫、教材の精選に努める。	
取組内容④-5【区分 各教科(音楽)】 音楽活動の基礎的な能力の伸長を図る。	B
指標 音楽を表現するための基本的事項の習熟とその定着を図り、また合唱・合奏・鑑賞を多く取り入れる。	

取組内容④-6【区分 各教科（美術）】 美術の基礎的能力の伸長を図る。	B
指標 形や色彩などによる表現の技能を身につけさせ、意図に応じて創意工夫し美しく表現する能力を育てる指導を進める。	
取組内容④-7【区分 各教科（技術・家庭）】 基礎的な知識や基本的な技術の習得を図る。	B
指標 実習や製作を必要に応じて取り入れる。	
取組内容④-8【区分 各教科（英語）】 基礎学力の定着を図る。	B
指標 T・T・少人数授業による細やかな指導により「聞く・話す・読む・書く」の4技能を重点的に伸ばす。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容①	月火木の週3日、昼休みに図書室開放を行い、読書活動の推進に取り組んだ。文化委員会が中心となり、蔵書の整理や学級文庫の整備に努めた。
取組内容②	校内向けの研究授業や、地域保護者に公開する授業参観などに取り組んできた。
取組内容③	小中一貫教育実行委員会を1回開催し、点検・改善を行っている最中である。
取組内容④-1	3年生は、放課後作文指導を適宜実施している。2年生は、2学期のまとめとして、冬休みの課題で作文指導を実施した。1年生は、单元ごとに要旨などをまとめる指導を実施し、「将来の夢」について、自分の考えを文章化させた。
取組内容④-2	各学年とも、それぞれの分野の資料を活用し、班学習やコの字型学習などの授業を進めることができた。
取組内容④-3	学力に応じて補助教材の活用方法をかえ、T・Tや机間巡視なども積極的に行った。
取組内容④-4	実験内容を精選し、より理解しやすい授業に努めていた。
取組内容④-5	放課後に実技補習を行い、基礎的な演奏能力の定着を図った。2学期は全学年、クラス合奏・合唱に取り組んだ。1年生では和楽器にも取り組んだ。
取組内容④-6	偏りなく美術の基礎的な能力を習得できるよう題材内容を精選し、また個人によって異なる能力や個性を伸ばせるよう個に応じた指導に努めた。
取組内容④-7	各学年、実習と座学を取り入れ、計画的に授業を進めた。
取組内容④-8	各学年とも4技能をバランスよく伸ばせるよう、授業内容に工夫を凝らしてきた。2年生ではT・Tや少人数指導を実施し、より細やかな指導を続けてきた。また、定期的に単語テストを行い、学力の定着を図ってきた。

今後への改善点	
取組内容①	さらに読書活動の推進に取り組むよう努める。
取組内容②	校内向けの研究授業だけでなく、授業参観などの在り方も検討し、幅広く公開できるように努める。
取組内容③	さらに小学校の職員との連携を深め、9年間を見通した指導体制の構築に努める。
取組内容④-1	語彙力の向上を図るために、読書指導を工夫する必要がある。
取組内容④-2	地理・歴史の並行型の学習を進めるにあたり、混乱しないように学習していくことが必要となる。
取組内容④-3	数学が苦手な生徒も率先して参加できるように授業を工夫する。
取組内容④-4	実験器具の消耗度合いを点検し整備を計画的に行う必要がある。
取組内容④-5	より多くの音楽活動を体験できるよう、さらに教材の精選に努める。
取組内容④-6	基礎的能力の定着と伸長のために、落ち着いた授業環境をつくる必要がある。
取組内容④-7	より多くの実習を取り入れられるよう工夫していく。
取組内容④-8	「聞く力」を強化するため、定期的リスニングテストやディクテーション（書き取り）を実施し、計画的に指導を続けていく。単語テストや音読テストに加えて、暗唱・インタビュー・グループ討議など様々なパターンでテストを実施し、能力を高められるよう指導していく。

大阪市立矢田西中学校 平成 25 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 道徳心・社会性の育成】 ①平成 26 年度の全国学力・学習状況調査における「近所の人に会ったときは、あいさつをしている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 1% 向上させる。(カリキュラム改革関連) ②平成 26 年度の全国学力・学習状況調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を平成 24 年度より 1.5% 向上させる。(カリキュラム改革関連) ③平成 25 年度の生徒アンケートにおける「私は、学校内のルール、社会のルールを自然と守っている」と答える生徒の割合を平成 24 年度より 2% 向上させる。(カリキュラム改革関連)	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【区分 人権を尊重する教育の推進】 互いの違いを認め合い、人権尊重の精神と態度を育てる教育を推進する。また、参加型や体験型の学習内容・方法を取り入れ、感性を高める指導を行う。	B
指標 年に 1 回芸術鑑賞行事を実施し、豊かな情操の育成につなげる。	
取組内容②【区分 道徳教育の推進】 規範意識の醸成、また正しい人間関係の構築に向けて、計画的に取り組む。	B
指標 道徳の時間を中心として、すべての場面で生徒が物事の善悪を判断できるよう指導を行う。また、部活動を中心として、あいさつ・正しい言葉遣いを身につけさせる。	
取組内容③【区分 問題行動への対応】 問題行動の未然防止に向けて取り組む。	B
指標 各学年で防犯教育を年 1 回実施する。	
取組内容④【区分 不登校への対応】 不登校生徒を減らす取組を進める。	B
指標 月に 1 回程度、教職員全体で情報交換を行う。	
取組内容⑤【区分 特別支援教育の充実】 障がいのある子どもと共に生きる意識の育成や共に成長することのできる集団を育てる取り組みを行う。	B
指標 特別支援教育についての校内委員会を毎月 1 回開き、情報交換を行う。	
取組内容⑥【区分 特別活動】 学校生活の問題をみんなで考え、正しく解決できる生徒会を育てる。	A
指標 生徒会組織・専門委員会組織の自主的活動の育成を図る。	

取組内容⑦【区分 進路指導】 生徒一人一人が、将来の生き方を考える力を養う取り組みを行う。	C
指標 職業調べ・職業講話等を学年に応じて実施する。	
取組内容⑧【区分 国際社会に生きる子どもの教育の推進】 子どもたちが自らの民族の歴史や文化・伝統を尊重し、自己の確立を図ることで、多様な文化を理解し、共に生きていく国際人としての資質や能力の育成に努める。	B
指標 チョソン友の会への結集生徒を増やす取組を進める。	
取組内容⑨【区分 学校・家庭・地域の連携の推進】 生活指導上の問題の解消に向けて、家庭や地域との連携を推進する。	A
指標 毎月1回、青少年指導員との合同巡視を行う。	
取組内容⑩【区分 防災教育の推進】 子どもたちの防災意識の向上に努める。	A
指標 年1回、地域と協力しながら防災訓練を実施する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容①	芸術鑑賞で、愛と友情をテーマにした劇の鑑賞をし、豊かな情操の育成を図った。
取組内容②	日々の学校生活を通して、全教職員が、細やかに生徒に対応し、道德教育の推進に努めた。
取組内容③	1学期末に「ケータイ安全教室」を実施し、携帯使用上のルールやマナー、ネットコミュニケーションでの被害、加害について指導した。
取組内容④	学年、担任を中心に様々な取り組みを行っている。
取組内容⑤	校内委員会で生徒の状況や課題について話し合い、共通理解を図ることができた。特別支援教育として、心のバリアフリーについての講演と車いすダンスを観た。
取組内容⑥	校内の生徒会活動をしながら、「おそうじ隊」・「平和人権学習」・「矢田8・6平和集会」「小中交流会」などの運営に参加することができた。来年度も、校内行事や地域の活動に生徒会も積極的に参加していく予定である。
取組内容⑦	1・2年生においては、将来の仕事について考えたり、職業について調べたりする機会を作った。職業講話の実施においては準備を行っていたが、各学年との行事日程が合わずに今年度は実施することができなかった。
取組内容⑧	3年生では1学期に『ハングル』を学び、2年生では2学期に『楽器体験』を実施した。また、1年生では3学期に『韓国の遊び』を実施する予定である。
取組内容⑨	合同巡視を定期的に行い、地域と連携をはかってきた。
取組内容⑩	1月18日（土）に実施した。本校生徒とともに地域の防災リーダー20名が参加され、東住吉消防署の方々の指導のもと、消火・救助・救命について学習した。

今後への改善点	
取組内容①	人権教育の整備、充実を図っていく。
取組内容②	教育活動全体で取り組む道徳教育を充実させていく。
取組内容③	各学年の実態に応じて内容・実施形態を考える。
取組内容④	状況に応じて、関係諸機関と連携をはかる。
取組内容⑤	特別支援教育の実施時期と、学年に応じた特別支援教育を検討していく。
取組内容⑥	校内だけでなく地域の取り組みなど、多種にわたり係ってきているので細かな計画を立て、取り組んでいかなければならない。
取組内容⑦	生徒が、自分の力で進路選択をしていくことができるように、本校における３年間の系統立てたキャリア教育を確立させていかなければいけない。
取組内容⑧	各学年とも引き続き計画を立て、韓国・朝鮮の歴史や文化・伝統への理解を深めていく。また、韓国・朝鮮だけではなく、多様な文化にふれる機会も増やしていきたい。
取組内容⑨	引き続き、地域の青少年指導員、保護司会等の連携、情報交換を行う。
取組内容⑩	寒い時期の実施であり、寒さ対策が必要である。もう少し暖かい時期に実施できるよう検討する。

大阪市立矢田西中学校 平成 25 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 健康・体力の保持増進】 ①平成 26 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における各学年の合計得点を、平成 24 年度より 1 ポイント向上させる。(カリキュラム改革関連) ②全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない(あまり食べていない)」と答えた生徒の割合を平成 26 年度調査において前年度より減少させる。(カリキュラム改革関連)	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【区分 体育科の授業の充実】 年間指導計画に沿って、指導を進め、体力の向上を図る。	B
指標 スポーツテストを年 1 回実施し、各個人の体力、運動能力を把握させる。	
取組内容②【区分 健康な生活習慣の確立】 健康な学校生活が送れるように計画的に指導を進める。	A
指標 「保健だより」等を通じて、積極的に情報発信に努める。	
取組内容③【区分 食育】 食に関する興味・関心を高めるよう計画的に指導を進める。	A
指標 食育に関する指導を各学年で年間 1 回取組む。	
取組内容④【区分 健康に関する現代的課題への対応】 健康な学校生活が送れるように計画的に指導を進める。	A
指標 喫煙・飲酒・薬物乱用の害について、各学年で年間 1 回取組む。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容① 計画どおりに進めることができた。 取組内容② 保健だよりや掲示板を活用し、情報発信に努めた。 取組内容③ 1 年と 3 年は、2 回ずつ、2 年生は外部講師の授業も含め 3 回取り組んだ。 取組内容④ 1 年生で喫煙防止、2 年生で飲酒防止、3 年生で薬物乱用防止についての指導を実施した。

今後への改善点	
取組内容①	安全・健康に留意しながら、さらに体力の向上を図る。
取組内容②	情報発信の継続と、発信した情報の行動定着をはかる。
取組内容③	内容を吟味し、よりわかりやすい食育をすすめていく。
取組内容④	日々の指導と合わせて、より身近な健康教育をすすめていく。

平成25年度 学校関係者評価報告書

大阪市立矢田西中学校 学校協議会

1 総括についての評価

--

2 年度目標ごとの評価

年度目標： 学力の向上
①平成26年度の全国学力・学習状況調査における知識に関する問題の正答率7割以上の生徒の割合を、平成24年度より1ポイント向上させる。(カリキュラム改革関連)
②学力診断テストにおける正答率3割以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成24年度より1ポイント減少させる。(カリキュラム改革関連)
年度目標： 道徳心・社会性の育成
①平成26年度の全国学力・学習状況調査における「近所の人に出会ったときは、あいさつをしている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を1%向上させる。(カリキュラム改革関連)
②平成26年度の全国学力・学習状況調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を平成24年度より1.5%向上させる。(カリキュラム改革関連)
③平成25年度の生徒アンケートにおける「私は、学校内のルール、社会のルールを自然と守っている」と答える生徒の割合を平成24年度より2%向上させる。(カリキュラム改革関連)
年度目標： 健康・体力の保持増進
①平成26年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における各学年の合計得点を、平成24年度より1ポイント向上させる。(カリキュラム改革関連)
②全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない(あまり食べていない)」と答えた生徒の割合を平成26年度調査において前年度より減少させる。(カリキュラム改革関連)
・ ・ ・ ・

3 今後の学校運営についての意見

--

全国学力・学習状況調査の結果から明らかになった現状

1 平成24年度の調査結果の概要

	国語		算数・数学		理科	
	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題
平均正答率(%)	70.6	66.7	58.1	43.2	50.2	38.9
平均正答数(問)	22.6/32	6.0/9	20.9/36	6.5/15	5.0/10	6.2/16
平均無解答率(%)	6.2	4.5	3.6	15.1	16.4	8.7

【添付資料】

- 教科・区分ごとの正答数分布のグラフ
- 領域・観点・形式ごとの正答数分布のレーダーチャート
- 質問紙調査の主な結果
 - ・ 児童生徒質問紙調査の「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目
 - ・ 同調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目
 - ・ 同調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の項目
 - ・ 同調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目
 - ・ 同調査の「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目
 - ・ 同調査の「朝食を毎日食べていますか」の項目
 - ・ 同調査の「国語・算数(数学)・理科の授業がよくわかりますか」「国語・算数(数学)・理科は好きですか」の項目

2 自校の取組の成果と課題

調査項目		成果と課題
国語	A問題【主として「知識」に関する問題】	<p>「書くこと」「読むこと」が、大阪市全体の平均正答率を上回った。「読むこと」については、全国平均との比較でもほとんど差が無く、大きく改善されている。残りの二つの領域では「国語の特質に関する事項」が大阪市および全国との比較でも、若干の差があるにとどまり、改善の方向に着実に進んでいると考える。</p> <p>一方、「話すこと・聞くこと」領域であるが、大阪市および全国と比較して20ポイントの低位にあるが、同領域のB問題では、逆に10ポイント程度高位にあり、相対する結果となっており、今後の詳細な分析を必要としている。A問題では総じて改善の方向にあり、今後も指導法の改善を中心とした取り組みを進めていく。</p>
	B問題【主として「活用」に関する問題】	<p>全ての領域で大阪市全体を上回っており、特に「書くこと」では、16ポイントの高位となった。</p> <p>全国との比較でも、二つの項目で10ポイント程度の高位となっており、国語における「活用」力への確実な定着がなされていると考える。今後も、表現力やコミュニケーション能力等の「活用」力を高めるための学習指導を進めたい。</p>

数学	A問題【主として「知識」に関する問題】	<p>「数と式」が大阪市全体と正答率が等しく、他の2領域では、大阪市全体より若干低い正答率となっているが、1ポイント以内の差となっており、着実に改善の跡が進んでいると考える。</p> <p>数学のAについては、中学校入学時の学力差の課題が大きく影響して</p>
----	---------------------	--

		<p>いることは否めない。今後も、校区小学校との密接な連携の元、基礎学力の定着と個々の生徒の学力に応じた指導法の改善と同時に家庭での学習習慣の定着を進めたい。</p>
	B問題【主として「活用」に関する問題】	<p>2領域において、大阪市全体より1ポイント以内の若干低い正答率となっており、Aと同様に、着実に改善の跡が進んでいると考える。</p> <p>一方、「数量関係」は、他の領域と比較して差異があり、指導法の改善が急がれる。</p> <p>数学全般に云えることであるが、個々の生徒間の学力差が大きく、その克服のためには、定着度に応じた教材の開発を中心とする指導・支援の充実が最大の課題と考える。</p>
	理科	<p>「生物」以外の「物理・化学・地学」領域で大阪市全体の正答率を3～5ポイント程度下回っている。「生物」は、全市正答率と比較しておよそ1ポイントの高位、全国比較でも差は接近している。</p> <p>しかしながら、特に「物理」の差が大きくあることは、理科の究極の目的である「自然現象を定性的・定量的に分析、考察し、定理・法則に収束させる」ことから考えれば、大きな課題が残っている。</p> <p>指導法の中で、演繹的あるいは帰納法的な両面の指導法を巧みに取り入れることにより「理科」の学力定着を図る必要がある。</p>
	児童生徒質問紙	<p>《国語》□「国語に関する生徒質問（45・47・50・51・52番）」の結果から、国語に対する学習への興味、理解度、主体的な取り組み状況等は、大阪市はおろか、全国を大きく上回っている。</p> <p>特に45、47、50番の項目では、およそ8割の生徒が「当てはまる」と回答しており、これは、全校平均のおよそ2倍に当たる驚異的なデータとなっている。</p> <p>《数学》□「数学に関する生徒質問（56・58・61・64・65番）」の結果から、数学に対する学習への興味、理解度、主体的な取り組み状況等は、大阪市や全国とほぼ同じか、61、64、65番のように、項目によれば上回っている部分もある。</p> <p>このことは、数年来の「荒れ」の状況からようやく脱却し、落ち着いた学習環境の中で、授業をおこなえるようになったことが、その第一要因と分析する。</p> <p>《理科》□「理科に関する生徒質問（67・69・72・75・78番）」の結果から、理科に対する□学習への興味、理解度、主体的な取り組み状況等は、総じて否定的回答となっている。</p> <p>特に、67・69番は、理科そのものへの興味や関心、授業の理解度を問うているが、□肯定的な回答が40パーセント前後しかなく、残りおよそ6割の生徒が、理科の学習を否定的に捉えていることになる。この差は、国語、数学に比較して歴然であり、指導法の早急な工夫と改善を進めなくてはならない。</p> <p>《基本的生活習慣と家庭学習》□「基本的生活習慣」の項目は、一定の肯定的な回答が多いが、校区の状況を考えれば、油断は許されない。</p> <p>保護者の実態としては、実生活に追われる中で、保護者としての子どもに係っての指導力や教育力に大きな期待をするのは難しい家庭が多くあるのが、本校の実態であり、今回のこのような結果になったのは、本校教職員の普段の実践と努力に負うところが大きいと判断する。さらに「家庭学習」の項目は全市や全国を大きく上回った肯定的な回答が多く、24番の「家で学校の宿題をしている」に至っては90%超えの結</p>

	<p>果となった。</p> <p>一方、基本的生活習慣の問題や、時間の自己管理、家庭での学習状況などにおいては、現実には、個人差が大きく、改善に向けての大きな課題である。課題の克服のためには、保護者の理解が当然のことながら必要となる。そのためにも、基本的生活習慣の確立とともに、家庭学習の習慣化に向けた、保護者との連携を一層深めたい。</p> <p>《自尊感情・規範意識・豊かな心》□この項目は、肯定的な回答が、全て全市および全国を上回っており、全ての項目で、8割～9割を超える生徒が肯定的な回答をおこなっている。</p> <p>数年前の「荒れ」を考えると隔世の感がある。このことは、今までの教科指導、生活指導そして生徒集団の育成についての全教職員の地道な対応の結果であることが全てである。しかしながら、保護者や地域の実態としては潜在的な負の要素があることは否めなく、今後の継続した取り組みは欠かせない。</p> <p>《学校での学習と読書》□大阪市全体との比較では、どの項目も肯定的な回答が多く、例えば、40番の「グループでの調べ学習」や41番の「授業における自己の考えを発表する機会」のような項目では、全国をも大きく引き離している。これらは、生徒の表現力や発表力の向上と定着につながる要素であり、PISA型の学力観の論議が進む中で、学力の向上につながる内容となる。</p>
学校質問紙	<p>5～6年前に「荒れ」の状態に陥り、学力・教科指導どころではなくなり、後追い指導に翻弄された実態があった。当然、保護者や地域からの信頼は失われ、不安や不信が高まる一方であった。</p> <p>しかしながら、「荒れの克服」を目指し、全教職員が対応した結果、一定の落ち着いた状況に確実に戻りつつあり、そのことは「生徒質問紙」の回答結果にも如実に反映されている。</p> <p>このような学習における安定した環境を維持するためにも、全教職員が「授業規律」に対しての一層の共通理解を深め、習熟度別少人数授業をはじめ、教材・教具の開発などの指導法の改善に向けた取り組みを深化させていきたい。あわせて、現在行っている研究授業のさらなる充実も図りたい。また、近年、進路指導の充実も結果が出てきており、細かな対応の結果、生徒はもとより保護者の意識も肯定的に大きく変化している。</p>
その他	<p>本校のような小規模校にとって、定数としての教員の配置は極めて少ないものであり、指導法の改善を図る上でも、大きな要因となってくる。</p> <p>一方、「加配」の削減に向けた方向が着実に進んでおり、その意味でも小規模校における加配についての検討を進めていただきたい。</p> <p>学力を定着させ、一定の安定した学習環境を維持するためにマンパワーは必要であり、その意味でも教育委員会のご高配とご英断を期待する。</p>

全国体力・運動能力、運動習慣等調査等の結果から明らかになった現状

1 平24年度の調査結果の概要

	種目別平均									合計 得点
	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (回)	持久走 (秒)	20mシャ トルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ボール投げ (m)	
男子	34.46	32.42	49.81	55.23	381.22		7.77	197.31	26.77	50.52
女子	25.72	22.57	43.80	42.09	301.58q		8.60	165.92	18.39	50.81

2 自校の取組の成果と課題

成果と課題
男子は、すべての種目において全国平均・大阪市平均を上回り、女子は、反復横とびを除いて大阪市平均を上回った。取組の成果が表れている。ただ、学年2学級のため、学年行事としての球技大会等に限りがある。

児童生徒等の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果から明らかになった現状

1 平成24年度の調査結果の概要

区分	結果
①暴力行為の発生件数(件)	0
②いじめの認知件数(件)	0
②いじめの現在の状況で「解消しているもの」の件数の割合(%)	0
③小・中学校における不登校児童生徒数(人)	15
④高等学校における長期欠席生徒数(人)	
⑤高等学校における中途退学者数(人)	

2 自校の取組の成果と課題

区分	成果と課題
①暴力行為の状況等	教職員の一致団結した指導の下で、ここ2～3年落ち着いた状況であり、暴力行為は、全く起こっていない。ただ油断大敵であるので、しっかり取組を進める必要がある。
②いじめの状況等	上と同様、落ち着いた状況の中で、いじめと認められる事案も全く発生していない。日々、生徒理解のために努力し、教育相談を有効活用する等、情報が常に入りやすいよう努めると共に、人権を尊重する教育を進める必要がある。
③小・中学校における不登校の状況等	休みがちな生徒は、比較的多いが、個々の理由や態様に応じて対応しており、完全不登校の状態の生徒はいない。今後も、担任まかせでなく、組織的に対応をしていく必要がある。
④高等学校における長期欠席の状況等	
⑤高等学校における中途退学の状況等	

※ 両表とも、小学校・中学校は①②③の項目、高等学校は①②④⑤の項目、特別支援学校は学校の状況に応じた項目について、それぞれ記入すること